

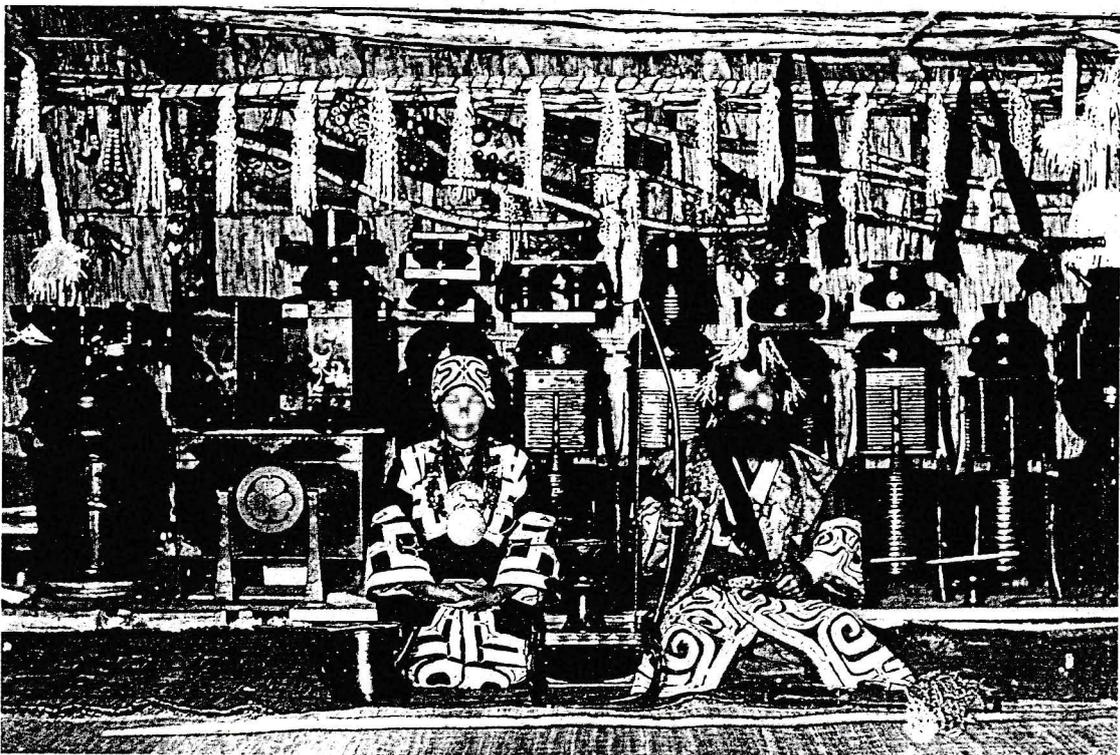
セレマク (陰) の思想

旭川市博物館

さてアイヌが通常座臥する「うしろ」には、所謂 iyoikir (宝壇) があって、夥しい宝器や祭器が積み並べられている。宝器や祭器の類を自己の背後に積み上げる気持ちは、謂わば「うしろだて」を作る気持ちである。…「うしろだて」となる宝器や祭器の一つ一つには精霊 (ramachi) が有って、それらの精霊が、持主のアイヌの後盾となり、常に背後から見守ってしてくれるものと、アイヌは信じている。…アイヌが宝器を欲しがり、またさまざまな祭器を蒐めては、背後に飾り立てるのは、決して貪欲な心からではなく、それらのものを多く蒐めれば蒐める程、自分を守ってくれる精霊が豊富になり、従って自分の「運が強くなる」と考へるからである。…アイヌの首長の義務として「宝物を多く蒐めること」「故事来歴に通ずること」「神々への祭祀を怠らぬこと」等が考へられるのも、実はこれに依って自己及び自己の周囲の人びとの「蔭を強くする」ためなのである。



知里真志保1952「アイヌ民族研究資料(第2)」『北方文化研究』第7輯



宝の前に座すアイヌの首長夫妻